

国指定史跡の追加指定について（「史跡 内裏塚古墳群」）

令和 7 年 7 月 2 3 日

教育振興部文化財課

国の文化審議会は、令和 7 年 6 月 2 0 日に文部科学大臣に対し、「史跡 ^{だいりづかこふんぐん} 内裏塚古墳群」（富津市）について、追加指定するよう答申しました。

既指定の内裏塚古墳（墳丘長 1 4 4 m）に、周囲の 7 基の古墳が追加指定されます。

富津市の内裏塚古墳群は東国の古墳時代を語る上でなくてはならない、県内で最も重要な古墳群の 1 つです。今後、市の史跡整備計画等に助言・助成していきます。

1 種別名称 史跡 内裏塚古墳群（富津市）
だいりづかこふん うわのづかこふん くじょうづかこふん こづかこふん いなりやまこふん
内裏塚古墳、上野塚古墳、九条塚古墳、古塚古墳、稲荷山古墳、
さんじょうづかこふん わりみづかこふん かめづかこふん
三条塚古墳、割見塚古墳、亀塚古墳（※下線の古墳が追加指定された古墳）

2 時 期 古墳時代中期～終末期（5 世紀中頃～7 世紀）

3 内 容 内裏塚古墳は 5 世紀中頃（古墳時代中期）につくられた、南関東で最大の前方後円墳です。内裏塚古墳群は、この古墳を核として形成された千葉県でも最大級の古墳群です。古墳群内には 4 9 基の古墳が発見されていますが、現在では 2 3 基の古墳が残されています。今回はそのうち、1 0 0 m 級の大型前方後円墳 4 基を含めた 7 基が追加指定されます。

5 世紀中頃から 7 世紀前半に至るまで、巨大古墳が連綿とつくり続けられている古墳群は県内には他になく、千葉県だけでなく東国の古墳時代を考えるうえで非常に重要です。

